

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

市長あいさつ

成澤会長あいさつ・活動状況報告

意見交換

- (1)さと川パークゴルフ場の管理・運営について
- (2)まちづくり推進協議会の活動内容を地域住民に知ってもらうことについて
- (3)AEDの設置場所について
- (4)AEDの使用方法など救急講習の受講の必要性について
- (5)若い世代にまちづくり推進協議会に参加してもらうための工夫について
- (6)災害時の対応・協力について
- (7)「ほのぼの防火訪問」の課題について
- (8)地域の健康教室について
- (9)成田市との交流について
- (10)事業の参加者に提供する飲み物を補助金の交付対象とすることについて
- (11)まちづくり推進協議会の事業と補助金について(案内看板の設置等について)
- (12)駅から中学校までの道路が暗く危険であることについて
- (13)その他の意見

第 62 回目となる今回は、各支所所管区域内の地域住民等が、地域の課題を共有し、その解決に向けた方策を検討し、地域特性を活かした個性あるまちづくりを推進するため、平成 22 年度に各支所に設置された「まちづくり推進協議会」のうち、「西神楽まちづくり推進協議会」(成澤会長)の委員の皆さんと、これまでの活動状況や今後の課題、市への提言などについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成 24 年 2 月 1 日(水) 午後 1 時 25 分～午後 2 時 35 分
場所	旭川市西神楽農業構造改善センター 講堂 (旭川市西神楽南 2 条 3 丁目)
相手団体	西神楽まちづくり推進協議会(成澤弘会長)の委員 13 人 (当日の出席者 10 人)
出席者	旭川市長 西川将人 「西神楽まちづくり推進協議会」(五十音順 敬称略) 石田和擴 小寺美津雄 近藤百合子(副会長) 後藤孝子 高島康夫 田中富保 那須康二 成澤弘(会長) 長谷山新三 矢野武男

対話の内容

市長あいさつ

皆さん、こんにちは。

今日は、この対話集会のためにお時間を取っていただき、ありがとうございます。

西神楽まちづくり推進協議会の皆様方から貴重ないろいろなご意見を聞かせていただくことができればと思い、私も楽しみにして来ました。

まず、日頃から協議会の中でご活動をいただいておりますことに、感謝とお礼を申し上げる次第でございます。

ご承知のように、市内に七つの支所がありますが、この支所の地域を単位にして、いろいろな団体や地域の皆さんに、その地域の全般的な部分についてお話し合いをしていただけるような組織を立ち上げていくことが、地域力の向上、地域の発展に大変重要なことであるという思いから、まちづくり推進協議会を設けさせていただきました。



また今後は、末広・春光地区や、東光・豊岡地区など、支所のない地域についてもこの推進協議会を設けるため、今その準備をしているところでございます。

対話集会についてですが、市長就任以来、市内各地域や様々な分野の団体の皆さんとの対話集会を行なってきており、今日で62回目になります。直接、市民の皆さんの声を聞かせていただく貴重な機会でありますので、今日も皆さんから西神楽地域のいろいろな事情について聞かせていただき、私自身も改めて認識を深めていきたいと思っています。

昨年と一昨年の大雨によりこちら地域の川が氾濫し、去年は数十世帯が学校に避難されるということもありました。また河川敷のパークゴルフ場も大変な被害がありましたが、地域の皆さんには本当に一生懸命に復旧していただきありがたく思っています。

皆さんには2年に渡って千個もの土のうを作成していただき、地域内の各所に保管をしていただいたり、「防火・防災フェア」や講演会の開催など、いろいろな活動をしてきていただいております。

この推進協議会には消防団の分団長にも委員として参加いただいておりますが、やはりこの地域ももちろん、全市的に防災という面において、日頃からいろいろな市民委員会や社会福祉協議会、いろいろな地域の団体の皆さんとの連絡・情報交換を密にしていきたいという思いで、年度途中からではありましたが、市内各分団の消防団の皆さんに協議会の委員として参加していただいております。特に西神楽地域につきましては2年続いて床下・床上浸水被害があったという地域でありますので、皆さんにおかれましては、水害に対する備えについて真剣に考えていただいているのではないかなと思っています。消防団の皆様方にも本当に感謝を申し上げますとともに、引き続きよろしくお願いを申し上げる次第でございます。

本市においても少子高齢化が進んでおり、全市平均の高齢化率は約26%

であります。西神楽地域は全市平均よりも高くなっています。一人暮らしのお年寄りなど、地域の皆さんが安心して暮らしていくためには、近隣の住民や町内会などの地域の団体などの地域力をしっかりと保って向上させていくことが重要な課題だと思っています。西神楽地域全体の活力を維持・発展させていくためにも、推進協議会の皆様方には引き続きお力添えをいただきたいと思っています。

簡単ではありますが、冒頭にあたりましてのあいさつとさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

成澤会長あいさつ及び活動状況報告

今日は大変お忙しいところ、私たち西神楽まちづくり推進協議会の委員と懇談していただく機会をいただき、誠にありがとうございます。また日頃、私たちの活動にいろいろと携わっていただいております関係職員の皆さま方におかれましては、心から感謝を申し上げます。

市長はかねてより地域力の向上を重要な施策の一つとして掲げ、その一環として支所地域まちづくり推進協議会を設置しました。その委員としてこの推進協議会に参加して感じたことは、ここでの活動を幅広く地域の方々に認識していただくことにより、地域の課題はそこに住む自分たちの問題であり、他人事ではないということ、地域の皆さんに再認識していただく良いきっかけになるのではないかとことです。

西神楽まちづくり推進協議会の活動状況

の概要を報告させていただきます。平成22年度、23年度と西神楽まちづくり推進協議会では、安全・安心なまちづくりを大きなテーマとして取り組んできました。ここ西神楽はご承知のとおり、自然豊かな農村地帯ですが、自然災害、特に洪水への警戒が必要な地域でもあります。また、高齢化も大変進んでおります。そのため、地域住民が共に助け合って日々の暮らしを安全・安心なものにしていかなければなりません。これまで五つの事業を提案し実施してきましたが、どの事業も一定の成果を残すことができたのではないかとと思っています。2年続けて実施しました「土のう製作備蓄事業」では、西神楽地域内5か所に200袋ずつ、合計千袋を備蓄しました。土のうの中身は砂で、誰でも持てる重さにしています。昨年9月2日の大雨の時には、川沿いの堤防が決壊する寸前となり、水田を守るために農家の皆さんにこの土のう使っていただきました。また10月に火災が発生した時には、消火活動に必要な水を確保するため、土のうを使って沢の水を止めたということもありました。これらに使用した土のうを補うために、来年度も土のう製作が必要と考えていますが、その時には防災教育の一環として中学校の生徒にも参加させてほしいと、西神楽中学校の校長先生からお話があり、大変喜ばしいことだと思っています。



昨年3月11日には東日本大震災がありました。その半年後の9月11日

に西神楽中学校のグラウンドを会場として、「西神楽防火・防災フェア」を開催し、地域住民の約1割に相当する約400人もの参加がありました。この事業には旭川市消防本部、そして地域の消防団の皆様の全面的な協力を得て、消火器やAEDの使い方など、実際に使いながら勉強させていただき大変好評でした。また講演会を2回開催しています。平成22年度には地域の高齢化問題をテーマに、神楽・西神楽地域包括支援センターのセンター長と、消防本部の防災課主幹に講演をお願いし、町内会長や老人クラブ会長など約80人の参加がありました。23年度には地域の絆と健康づくりをテーマに保健所の2人の保健師に講演をお願いし、63人の出席がありました。

これらの事業を実施するに当たり、「チーム西神楽」という事業実施団体を組織して、会長には西神楽中央市民委員会の会長である矢野武男さんになっていただきました。土のうの製作には西神楽まちづくり推進協議会から、地域の市民委員会やボランティア団体などに参加・協力を呼びかけ、22年度には59人、23年度には63人の参加をいただきました。これらの各事業は多くの人たちの参加を得て実施することができましたことから、西神楽地域全体に話が行き届き、一定の成果を収めることができたと思っています。これも地域の絆ではないかなと思っています。

今後とも西神楽まちづくり推進協議会とチーム西神楽が一体となりながら、地域の市民活動団体と連携して、もっともっと地域の絆を強いものにしていきたいと考えています。

平成23年12月の西神楽地域の人口は1,661世帯、男性は1,706人、女性は1,939人、合計で3,645人となっています。平成22年8月には3,692人でしたので、約50人減ったということになります。過疎化が進み、高齢者の多い地域になってきました。

以上、簡単にあいさつを兼ねまして、西神楽まちづくり推進協議会の活動状況を報告させていただきました。ありがとうございました。

～意見交換～

参加者から寄せられた意見と、市長のコメントについてまとめたものを掲載します。
(以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます)

(1)さと川パークゴルフ場の管理・運営について

那須

一昨年、さと川パークゴルフ場が冠水した時には、いろいろと対応していただき、本当にありがとうございました。

地域では高齢化が進んでいます。私たちも大変苦勞して頑張ってきたところではありますが、このさと川パークゴルフ場を市にお渡しし、運営については私たちで行いたいと考えています。私たちも10年近く本当に苦勞して今精一杯やってきましたが、高齢になってきており、将来が不安です。市に引き取ってもらえることができれば、本当にありがたいと思っています。引き受けることができないということであれば、何らかのかたちで市からのご協力をいただきたいと思っています。

市長

さと川パークゴルフ場につきましては、日頃から皆さんに管理運営していただき感謝しております。本当に素晴らしい地域の皆さんの事業として成長していただいたと思っています。今後の運営に対する不安があるというお話をお伺いしましたが、今後、土木部と検討させていただきたいと思います。

(2)まちづくり推進協議会の活動内容を地域住民に知ってもらうことについて 矢野

今日の対話集会ですが、西神楽まちづくり推進協議会の委員だけではなく、委員以外の人に参加することで、この推進協議会の活動内容を広く知ってもらうことができると思います。できれば町内会長には参加してもらいたいと思います。

推進協議会の活動は一般の市民にはそれほど知られていません。それでも2年続けて活動してきましたので、ある程は理解されてきたと思いますが、やはり、土のう作りのように継続していくことが大事だと思っています。

成澤

推進協議会の活動内容を地域住民に知っていただくためにも、委員以外の人たちが対話集会に参加することもいいと思います。今後、対話集会がある時にはそのようにすることはどうでしょうか。

市長

全然構わないと思います。今回は、まちづくり推進協議会の皆さんとの対話集会といいますが、地域住民の皆さんを対象に開催したこともあります。農作業の忙しくない時期頃に、また改めて対話集会を開催する機会をつくらせていただきたいと思います。

成澤

対象はまちづくり推進協議会で、一般の人が傍聴できるというようなかたちでもいいと思います。

矢野

今、推進協議会には西神楽地域の市民委員会から委員として参加され、事業を行う際に地域住民に協力等をお願いする時には、各市民委員会の会長をお願いしている状況です。しかし、これらの事業は多くの人たちが、地域のため、自分たちのためにあるということを理解していただいて参加していただかなければいけないと思いますので、そのように皆さんに思っただけのように努力したいと思います。

市長

皆が自分から参加・協力してもらえるようにしていきたいということですね。

長谷川

推進協議会の事務局である西神楽支所では、広報やチラシを町内会に回

覧して、活動状況などをお知らせしていますが、まだまだ地域に浸透していないように思えます。今後ももっと浸透させていくための努力が必要だと思います。

(3)AEDの設置場所について

成澤

昨年の秋頃に西神楽の学校などにAEDが設置されたが、倒れるのは夜が多いのに、昼間しかAEDが使えないというのはどういうことなのか、と訊かれたことがありますが、この件について市長はどう思いますか。

市長

AED自体は電池が入っていますので、いつでも使えます。AEDが設置してある建物が夜は施錠してあって入れないので、持ち出して使うことができないということでしょうか。施錠してあれば、鍵を開けて持って行くことができるというかたちにしなければいけないと思います。

成澤

できれば24時間開いているコンビニエンスストアに設置するとういと思います。

市長

検討してみなければならぬですが、コンビニエンスストアに設置するとういですね。

(4)AEDの使用方法など救急講習の受講の必要性について

後藤

AEDの取扱いについては、皆が講習などで学ぶべきだと思います。機械が手順を説明するといっても、やはり不安です。市民委員会の女性部には、毎年消防の方が来て講習を行ってくれていますが、男性は受けていません。各町内会でも講習を受けるといいと思います。

市長

ぜひ救急講習は受けてほしいと思います。消防の方は要請があればいつでも参ります。町内会単位でもいいですし、ある程度の人数を集めていただいて、呼んでいただければいつでも参ります。また、1回ぐらい受けても、パットを当てる位置など、わかりづらいと思いますし、忘れてしまいますから、何度も受けていただきたいと思います。

AEDが設置されている場所も分かっていない人もいないですし、またすぐにAEDを使うのではなく、まず気道を確保して、息をさせて、心臓マッサージをして、脈を診ながら、それからAEDを使うという手順になります。1分間に何回空気を吹き込むだとか、心臓マッサージを1分間に何回やるだとか、そういうこともおさらいしておかないといけません。私からも消防に伝えときます。

成澤

「防火・防災フェア」では、多くの人たちが真剣に講習を受けていました。でも時間が経つとまた忘れてしまいますから、毎年1回というように定期的に受けるといいと思います。

(5)若い世代にまちづくり推進協議会に参加してもらうための工夫について 田中

市民委員会の役員もこの推進協議会の委員も高齢の方が多い状況です。高齢の方だけでなく、若い人たちの考えも聞くために、推進協議会に若い人たちが参加するような工夫について協議するとよいと思います。

若い人たちがどれだけ関心を持っているかが問題です。この推進協議会の活動を若い人たちを含めた市民にもっと浸透させて、関心を持っていただくための方法を考えなければ、この推進協議会の活動も縮小していってしまう気がします。

高島

西神楽地域は縦長でとても広い地域です。自分も実際に参加するまで、この推進協議会については知りませんでした。この推進協議会を継続していくためには、若い世代の参加も必要ですが、若い人たちを巻き込むということはとても大変なことだと思います。自分は若い人と高齢の方との中間層にいますので、これらを結びつけていくことを考えていきたいと思っています。

市長

西神楽地域の商店街の青年部の方たちや、農家の若い人たちに参加してもらえるといいですね。いろいろな団体がありますが、学校のPTAの人たちに推進協議会の委員になってもらうというのはどうでしょうか。30歳代ぐらいの人たちとのネットワークができるような気がします。委員を選定する時に声をかけてみてはどうでしょうか。

成澤

そうですね。市民委員会もそうなのですが、この地域の優秀な人で役員になったことがないという人もいますので、そういう人たちを何とか巻き込んでいきたいという考えもあります。

後藤

勤めている人が多いので、なかなか昼には集まれないということがあります。

市長

自営の方は融通がきくかもしれませんが、サラリーマンの人たちは昼の会合に来ることは難しいですね。でも他の地域のまちづくり推進協議会では、PTAの方が委員になっているところもあり、そこではやはり夜に活動しています

ね。

市民協働室長

夜に活動している地域が多いですが、昼の方がよいという地域もあります。

市長

それについてはまた考えていかなければいけないですね。私も含めて、ぜひ皆さんもいろいろと知恵を絞っていただき、若い人たちに地域づくりに参加してもらうための方策を考えていただきたいと思います。また若い人たちが地域づくりに参加する機会があれば私もぜひ顔を出させてもらいたいと思います。

(6)災害時の対応・協力について

高島

昨年の大雨の時の避難勧告の際には、自分も消防団として現場にいましたが、地域住民や消防と情報を共有する大切さを感じました。対象地域の住民が少なかったので、スムーズに事が運びましたが、もっと多くの住民が対象だと本当に大変だと思います。災害が起きた時に、自分たちはどこまで地域住民として協力していけるのか改めて考えました。

市長

昨年の避難勧告の時には本当にお世話になり、ありがとうございました。

(7)「ほのぼの防火訪問」の課題について

後藤

ほのぼの防火訪問をしています。訪問してもなかなか開けてくれないところがあります。無理やり入っていくわけにもいきません。また、個人情報の関係から地図も渡されておらず、訪問するのも大変です。以前、何度か訪問したけれども会えず、亡くなっていたということがありました。

市長

ほのぼの防火訪問は婦人防火クラブの皆さんにお願いしているところです。消防の方である程度の情報を把握していますが、基本的には婦人防火クラブやFSレディースの皆さんのネットワークの中で情報を共有しているという状況ですね。ほのぼの防火訪問の課題については、後日消防に確認してみたいと思います。

(8)地域の健康教室について

後藤

地域の健康教室ですが、初めの頃はなかなか参加者が集まりませんでした。高齢者にとっては外出することも大変なのですが、たくさんの人に、声をかけてとお願いすることで、参加者も少しずつ増えてきています。昨年もたくさんの方が集まり、毎年だんだんと増えてきています。今度、このようなものが

ありますよと声をかけてあげると結構来てくれますので、そういうことも大事だと思っています。

市長

市の保健所の事業ですから、市でももっと多くの人に来てもらえるように考えなければなりませんね。今後もたくさんの人に参加してもらえるように、ぜひまたご協力いただきたいと思います。

(9)成田市との交流について

那須

先月、成田市と旭川市の交流ツアーに参加しました。成田市では、市長、観光協会会長、商工会、パークゴルフ協会など、とても歓迎してくれました。成田市の人たちがこちらに来る時には、パークゴルフ場での交流のほか、地元のおいしい農産物も食べてもらいたいと思いますので、ぜひ市にも協力していただきたいと思います。夏には200人以上で来るというお話もありましたので、その際にはぜひ市長にも歓迎式に出ていただきたいと思います。

市長

ぜひ、そのようにさせていただきたいと思います。

(10)事業の参加者に提供する飲み物を補助金の交付対象とすることについて

矢野

まちづくり推進協議会の事業に対する補助金では、夏の暑い中、土のう作りに参加していただいた人たちに、お茶1本買うこともできません。そのような決まりになっているそうです。2年続けて、土のう作りをしていますが、会長のポケットマネーからお茶を出しているという状況です。何とかお茶代くらいは認めてもらえないのでしょうか。

成澤

土のう作りでは、スコップを持って汗をかいていますし、駅前の花壇づくりでも、一生懸命汗をかいてやってくれていますので、それを見ると、ジュースを買って出してあげたくくなります。何でも出してくれとは言いませんので、このようなことに対して何か考える余地がないかなと思います。外に出て事業をした時のお茶代くらいは考えてみてほしいと思います。

那須

推進協議会の会議がある時には必ずお茶が出ていますが、どこまでがよくて、どこまではだめかというその判断がわからないですね。

市長

市から補助金を交付されているいろいろな団体がありますが、基本的に市からの補助金の部分については飲食には使えないような形で運用していると

思います。まちづくり推進協議会だけ例外にすると、他の団体と兼ね合いもありますので、その辺の整理が難しいと思います。少し話は違うかもしれませんが、公職選挙法の中で選挙事務所では、お茶やミカンを出してもいいのですが、お酒やケーキは駄目など、細かく決まっています。しかし、そのようなご意見があるということで、私なりに検討してみたいと思います。

市民協働室長

汗水流して何時間も作業していただいているのに、何もなく、本当にボランティアのようにしていただいているということについては、確かに心苦しいところでもあります。補助金の支出に一定の制約がある中で限界があるのですが、活動が全く無償奉仕だけで支えられていいのかということもありますし、何か報いることができる方法がないか、可能かどうかということについて引き続き検討していく必要があると思いますので、持ち帰って検討したいと思います。

(11)まちづくり推進協議会の事業と補助金について(案内看板の設置等について)

矢野

補助金の額が限られていますが、例えば少し額を超える場合には、これ以上はもうどうしようもならないものなののでしょうか。

田中

現状の補助金の額では、行う事業も限られてきます。

推進協議会の中でいつも話が出ることなのですが、国道から入って、ここは農業改善センター、保育園、中学校、支所があるのに、国道には案内看板がありません。小学校への案内看板もありません。このような看板を作るとなると非常にお金がかかり、補助金では作ることができません。

成澤

推進協議会の事業の内容によっては、別に事業費が出るようにならないのかなと思いました。現状の補助金では、それほど事業もできません。看板もお金結構かかりますし、何より今まで看板が無いことがおかしいと思います。支所や公民館、農業改善センターが1か所にあるのだから、国道に案内看板を設置すべきだと思います。

市長

看板を立てるとなると、かなりの金額が必要になりますので、それは推進協議会の補助金とは別な予算になります。皆さんの中で話し合っていて、看板が必要だということであれば、お話しいただきたいと思いますし、別に要望書などを市に出していただくということも検討していただいてもいいと思います。ここですぐにできるとは言えませんが、予算を立てていく時に、土木部と話をしていくということになっていくと思います。

いずれにしてもこの補助金にとらわれずに、例えば地域に関わる大きな問題として、農業地帯ですから、土地改良や、用水路の改修などは、推進協議

会とは別の事業でやらなければいけないことですし、地域の案内看板の設置については、コンクリートでしっかりとした土台を作って大きな看板を設置すると、相当な金額になり、推進協議会の補助金では当然無理なので、別なかたちで考えていただきたいと思います。また、あまりお金をかけなくてもできる事業もあると思いますので、補助金の範囲中でできる事業等の話もぜひ進めていただきたいと思います。それと同時に、将来の西神楽地域はこうあるべきだとか、こういうものがあると西神楽のまちがもっと輝くなども一緒に考えていただいて、そのためにはこれだけお金が必要だということがあれば、補助金にはとられずに別の形で考えていただきたいと思います。優先順位がありますから、すぐにできるものと時間をいただくものがありますが、そのように考えていただければと思います。

(12) 駅から中学校までの道路が暗く危険であることについて

小寺

西神楽駅から西神楽中学校までの間の通りが暗く、人通りが少ないので、中学生が部活などで帰りが遅くなると危険です。もう少し明るくしてほしいと思っています。

成澤

それは推進協議会でまた話し合えるといいと思います。

(13) その他の意見

近藤

「防火・防災フェア」には、小中学生やおじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんを連れてきたりと、様々な年齢の方々に参加していただきました。本当にやってよかったなと思いました。

成澤

「防火・防災フェア」の開催に当たっては、消防本部の方々に大変お世話になりました。事前に現地を見てもらったり、消防車両を出していただいたり、予定の時間を過ぎてもAEDなどの講習を続けていただくなど、本当に助かりました。参加者の皆さんも喜んでいました。

石田

安心・安全なまちづくりということを柱に、多くの方々の協力で土のうを作っています。その土のうが実際に使われ、役に立っていますので、今後もこれはぜひ継続していきたいと思っています。



石田

高齢化率は西神楽が1位になったという話もあります。西神楽が40.8%ですが、大学の先生の話ではもう3、4%増えると限界集落になるという状況だそうです。そのような中、西神楽には退職者が多い

ので、その人たちを活用して、例えば高齢者宅前の除雪など、何かできないかと推進協議会の中で検討できないかと思っています。